

CASBEE京都-新築(2015年版)

(仮称)嵯峨天龍寺立石町計画

■使用評価マニュアル CASBEE京都-新築(2015年版)

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト: CASBEE京都-新築2015 (v.1.0)

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目	重点項目等	重点項目に対する全国版評価基準の見直し	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体	
				評価点	重み係数	評価点	重み係数		
Q 建築物の環境品質								3.1	
Q1 室内環境					0.40		-	3.0	
1 音環境				3.3	0.15	2.8	1.00	3.0	
1.1 騒音				3.0	0.40	3.0	0.40		
1.2 遮音				3.8	0.40	3.6	0.40		
1 開口部遮音性能				T-2以上	5.0	0.40	5.0		0.30
2 界壁遮音性能					3.0	0.60	3.0		0.30
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)					-	-	3.0		0.20
4 界床遮音性能(重量衝撃源)					-	-	3.0		0.20
1.3 吸音				3.0	0.20	1.0	0.20		
2 温熱環境				2.7	0.35	2.5	1.00	2.6	
2.1 室温制御				2.5	0.50	2.1	0.50		
1 室温				3.0	0.38	3.0	0.57		
2 外皮性能				1.0	0.25	1.0	0.43		
3 ゾーン別制御性				3.0	0.38	-	-		
2.2 湿度制御				3.0	0.20	3.0	0.20		
2.3 空調方式				3.0	0.30	3.0	0.30		
3 光・視環境				2.8	0.25	3.3	1.00	3.1	
3.1 昼光利用				4.6	0.30	4.2	0.30		
1 昼光率				●自然 A(全国版準用) インナーテラス:2.5%≦[昼光率]、住居:1.25%≦[昼光率]	5.0	0.60	5.0		0.60
2 方位別開口					-	-	-		-
3 昼光利用設備					4.0	0.40	3.0		0.40
3.2 グレア対策				2.0	0.30	4.0	0.30		
1 昼光制御				●自然 B(推奨内容) 住居:カーテン、庇を組み合わせて制御。	2.0	1.00	4.0		1.00
3.3 照度					1.0	0.15	1.0		0.15
3.4 照明制御					3.0	0.25	3.0		0.25
4 空気質環境				3.5	0.25	3.3	1.00	3.4	
4.1 発生源対策				4.0	0.50	4.0	0.63		
1 化学汚染物質				F☆☆☆☆をほぼ全面的(床・壁・天井・天井裏の面積合計の70%以上)に採用	4.0	1.00	4.0		1.00
2 アスベスト対策					-	-	-		-
4.2 換気				3.0	0.30	2.3	0.38		
1 換気量				●自然 A(全国版準用)	3.0	0.50	3.0		0.33
2 自然換気性能					-	-	3.0		0.33
3 取り入れ外気への配慮					3.0	0.50	1.0		0.33
4.3 運用管理				3.0	0.20	-	-		
1 CO ₂ の監視				-	-	-	-		
2 喫煙の制御				3.0	1.00	-	-		
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	2.9	
1 機能性				2.5	0.40	4.0	1.00	3.2	
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40	5.0	0.60		
1 広さ・収納性				個室10㎡/床で、かつ多床室8㎡/床以上。	-	-	5.0		1.00
2 高度情報通信設備対応					-	-	-		-
3 バリアフリー計画					3.0	1.00	-		-
1.2 心理性・快適性				1.0	0.30	2.5	0.40		
1 広さ感・景観				●とも C(独自加点) 住居・宿泊部の天井高2.3m以上、窓の適切な配置	-	-	4.0		0.50
2 リフレッシュスペース					-	-	-		-
3 内装計画					1.0	1.00	1.0		0.50
1.3 維持管理				3.5	0.30	-	-		
1 維持管理に配慮した設計				維持管理に配慮した設計で、取り組みの項目数が標準以上	4.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保					3.0	0.50	-	-	
3 衛生管理業務					-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性				3.0	0.30	-	-	3.0	
2.1 耐震・免震				3.0	0.50	-	-		
1 耐震性				3.0	0.80	-	-		
2 免震・制振性能				3.0	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数				3.2	0.30	-	-		
1 躯体材料の耐用年数				●大切 A(全国版準用) 主要な用途上位3種の、2種類以上にB以上を使用し、Eは不使用。	3.0	0.20	-		-
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔					2.0	0.20	-		-
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔					3.0	0.10	-		-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔					3.0	0.10	-		-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔					5.0	0.20	-		-
6 主要設備機器の更新必要間隔					3.0	0.20	-		-

2.4 信頼性	1	空調・換気設備				2.8	0.20	-	-				
	2	給排水・衛生設備				3.0	0.20	-	-				
	3	電気設備				2.0	0.20	-	-				
	4	機械・配管支持方法				3.0	0.20	-	-				
	5	通信・情報設備				3.0	0.20	-	-				
	5	通信・情報設備				3.0	0.20	-	-				
3 対応性・更新性						2.7	0.30	2.2	1.00	2.4			
3.1 空間のゆとり						2.4	0.30	1.4	0.50				
1 階高のゆとり						2.0	0.60	1.0	0.60				
2 空間の形状・自由さ						3.0	0.40	2.0	0.40				
3.2 荷重のゆとり						3.0	0.30	3.0	0.50				
3.3 設備の更新性						2.8	0.40	-	-				
1 空調配管の更新性						3.0	0.20	-	-				
2 給排水管の更新性						2.0	0.20	-	-				
3 電気配線の更新性						3.0	0.10	-	-				
4 通信配線の更新性						3.0	0.10	-	-				
5 設備機器の更新性						3.0	0.20	-	-				
6 バックアップスペースの確保						3.0	0.20	-	-				
Q3 室外環境(敷地内)						-	0.30	-	-	3.4			
1 生物環境の保全と創出						●とも	A'(全国版準用)	3.0	0.30	-	-	3.0	
2 まちなみ・景観への配慮						○	C(独自加点) D(独自基準)	景観地区、風致地区にあり、認定または許可を得ている。	4.0	0.40	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮									3.0	0.30	-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上						●とも、 自然	A'(全国版準用)		3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上						●とも	A(全国版準用)		3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性									-	-	-	-	3.3
LR1 エネルギー									-	0.40	-	-	3.7
1 建物外皮の熱負荷抑制								[BPI _m] = 0.68	4.0	0.20	-	-	4.0
2 自然エネルギー利用						●自然	A(全国版準用)		3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化						●自然	C(独自加点)	BEI 非住宅 0.89 住宅(専有部) -	4.0	0.50	-	-	4.0
集合住宅以外の評価(3a.3b)								[BEI _m] = 0.89	4.0	1.00	-	-	
集合住宅の評価(3c)									-	-	-	-	
4 効率的運用									3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価									3.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング									3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制									3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価									-	-	-	-	
4.1 モニタリング									3.0	-	-	-	
4.2 運用管理体制									-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル									-	0.30	-	-	3.2
1 水資源保護									3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水								節水コマなどに加えて、省水型機器などを用いている。	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用									3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無						●自然	A(全国版準用)		3.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無									3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減									3.1	0.60	-	-	3.1
2.1 材料使用量の削減						●大切	B(推奨内容) D(独自基準)	リサイクル資材を2品目用いている。	2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用							3.0		0.20	-	-		
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用						●大切	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用						●大切	A'(全国版準用) B(推奨内容)		4.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材						●自然	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み						●大切	A(全国版準用)		3.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避									3.3	0.20	-	-	3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用									3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避									3.5	0.70	-	-	
1 消火剤									-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)									4.0	0.50	-	-	
3 冷媒									3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境									-	0.30	-	-	3.0
1 地球温暖化への配慮								ライフサイクルCO2排出率=91%	3.3	0.33	-	-	3.3
2 地域環境への配慮									2.8	0.33	-	-	2.8
2.1 大気汚染防止									3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善						●とも	A(全国版準用)		3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制									2.3	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減									-	-	-	-	
2 汚水処理負荷抑制									3.0	0.33	-	-	
3 交通負荷抑制									2.0	0.33	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制									2.0	0.33	-	-	
3 周辺環境への配慮									3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止									3.0	0.40	-	-	
1 騒音									3.0	1.00	-	-	
2 振動									-	-	-	-	
3 悪臭									-	-	-	-	
3.2 風害・砂塵・日照阻害の抑制									3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制									3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制									-	-	-	-	
3 日照阻害の抑制									3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制									3.0	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうちに漏れる光への対策									3.0	0.70	-	-	
2 星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策						●とも	B(推奨内容)		3.0	0.30	-	-	

記号凡例 ●:重点項目 ○:低炭素景観創出に係る項目

重点項目キーワード凡例 「大切」:大切に使う「とも」:ともに使う「自然」:自然からつくる